

感動をありがとう！
— 熱い戦いと笑顔のおもてなし —



①ヘッドスライディングで愛媛チームが得点(野)
②観客の応援を背にシュートする愛媛の選手(ハ)
③リード成年男子で愛媛が優勝(山) ④エスコートキッズを務めた市内の小学生(サ) ⑤会心の当たり(ソ) ⑥守備をかいくぐりシュート(ハ) ⑦ボールを追って真剣勝負(サ) ⑧雨の中でも力を出し切る(野) ⑨迫りくる壁を攻略する愛媛の選手(山) ⑩ヒットを打ち塁を回る愛媛の選手(ソ)
(サ:サッカー、ハ:ハンドボール、野:軟式野球、ソ:ソフトボール、山:山岳)



市内でも熱戦が展開
第72回国民体育大会「愛媛^{えがお}つなぐえひめ国体」(9月30日〜10月10日)は、愛媛県では昭和28年に四国4県で共同開催して以来64年ぶり、初の単独開催となりました。当市でも10月1日から3日までと5日から9日までの計8日間にわたって、サッカー、ハンドボール、軟式野球、ソフトボール、山岳の各競技を開催。全国から集まったトップアスリートたちによる熱戦が繰り広げられました。全力でプレーした選手には、観客の皆さんから熱い声援と惜しみない拍手が送られました。

大会期間中だけでなく、開催前の準備段階から、競技関係者のほか、ボランティアやふるまい協力団体、協賛企業、応援に駆け付けた皆さんなどたくさんの方が関わり、「おもてなし」の心を持ってそれぞれの立場で大会を支えてくれました。

選手たちの力強いプレー、関係者が見せたおもてなしの笑顔など、多くの人に感動を届けてくれた大会の様子を写真を中心に紹介します。

全国各地から来た皆さんに
西条市の印象を尋ねてみました

東京からやって来ました！



山岳競技東京代表
野中生萌選手(左)
小川弥生選手(右)

3日前からJR伊予西条駅前のホテルに滞在しています。お水があちこちで出ていてすごいですね。図書館付近の泉には驚きました。西条は水のまちなんです。出店のシャーベットもおいしかったです。今夜はぜひ西条産のビールや日本酒をいただいて帰りたいな。

細やかな心配りに感心！



鳥取選手団副団長／鳥取県体育協会専務理事
後藤裕明さん

観客用テントを用意しており、お客さんへの細やかな心配りが素晴らしいです。リード競技場に屋根があるところは少ないが、ここは屋根があり、今日のように雨のときはいいですね。子どもたちも多数応援に来ていて、彼らの心に残るのもいいと感じました。このお汁(いもたき)は郷土料理なんですね。肌寒いから温かいのはうれしいし、おいしいです。他市の競技場にも行ったが、西条市は全体としておもてなしがいいですね。

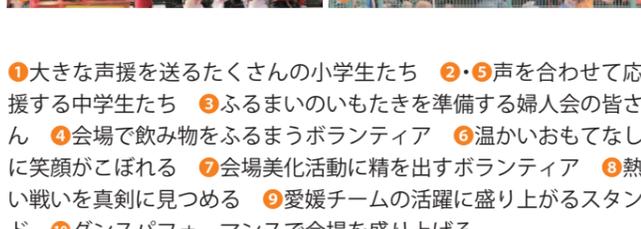
ご協力いただいた皆さんに心から感謝

西条市が熱気と感動、そして愛顔に包まれたえひめ国体でした。これもひとえに市民の皆さんやボランティアスタッフなどチーム西条で大会運営に取り組んでいただいた結果だと思います。大会成功に向けて結集した市民力を原動力とし、ワクワク度日本一のまちづくりに努めてまいります。ありがとうございました。



▲軟式野球の始球式

西条市長
玉井敏久



①大きな声援を送るたくさんの小学生たち ②・⑤声を合わせて応援する中学生たち ③ふるまいのいもたきを準備する婦人会の皆さん ④会場で飲み物をふるまうボランティア ⑥温かいおもてなしに笑顔がこぼれる ⑦会場美化活動に精を出すボランティア ⑧熱い戦いを真剣に見つめる ⑨愛媛チームの活躍に盛り上がるスタンド ⑩ダンスパフォーマンスで会場を盛り上げる

松山から応援に来ました！

高津さん：徳永選手が経営する松山のクライミングジムに通っていて、今日は皆で応援に来ました。まさか優勝するとは！ 2人とも同じくらい高いところまで登りつめて、ウルウルしちゃいましたね。
鈴木さん：登山をきっかけにクライミングを始めました。以前このパークに来て、リードのウォールを一番上まで登ったこともあります。料金が安くていいですね。クライミングの技術は登山にも生かれます。



山岳競技を観戦した
高津美幸さん(左)
鈴木京子さん(右)

熱い応援と温かいおもてなしを、ありがとうございました！



学校観戦で元気よく応援！

選手が高いところにどんどん行くけんかっこいい。子ども用の小さい壁は登ったことがあるけど、頭を使えば登れるけん、おもしろい。大人になったらクライミングをやりたいです。



氷見小学校2年
小林 蒼さん

リード成年男子で愛媛代表が優勝！

徳永選手：地元愛媛で優勝できて、よかったです。何年も前から、えひめ国体のために準備をしてきました。このパークでも何度もイベントをしてきました。えひめ国体が終わると思うと感慨深くなり、涙が止まらなかったです。いろんな気持ちが入り混じった国体でした。
清水選手：いろんな人に支えてもらって優勝でき、よかったです。自分はリラックスして臨むことができました。決勝のセットを最初に見たときは結構難しいと思ったが、体を止めずに登ることができました。要所要所で難しくて緊張しましたね。

石鎚クライミングパーク
SAIJOでインタビュー



山岳競技愛媛代表
徳永潤一選手(左)
清水裕登選手(右)